

# お子さまの きこえについて

子どもの



のガイド



小児療育相談センター

## 子どものきこえ・耳について

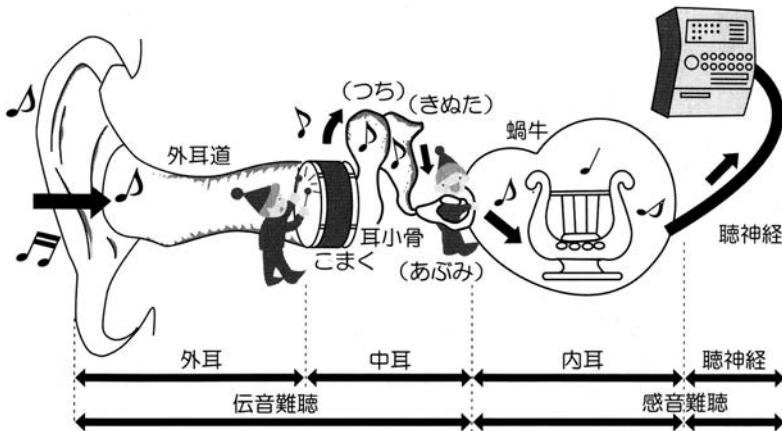
小児療育相談センターは、  
地域福祉の向上をめざし、  
子どもの視聴覚検診を行っ  
ております。

このパンフレットは視聴覚  
検査の聴覚班が、保護者や  
幼稚園・保育園の先生方に  
子どものきこえについて知  
っていただきたいことをま  
とめたものです。

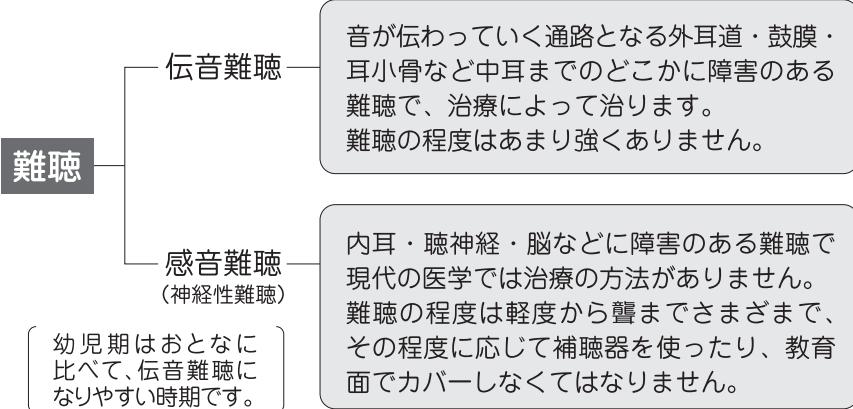
## CONTENTS

02	きこえのしくみ・鼻と耳の関係
02	難聴の種類
03	幼児期に多い伝音難聴の原因
03	鼻と耳の関係
04	きこえに影響する鼻・のどと耳の病気について
04	きこえに影響する鼻・のどの病気
05	耳の病気
06	次のようなことに注意しましょう。
06	子どものきこえの異常を知るには 次のようなことに注意しましょう。
06	こんなこともやってみましょう。
07	治療でなおらないきこえの 異常がみつかったら…。
07	きこえと同時にことばの問題も大切なことです。

音は空気の振動として耳に入ります。この振動は鼓膜につながっている小さな3つの骨（耳小骨）を動かして蝸牛へ進み、さらに聴神経・脳へと伝わります。音がよくきこえるためには、鼓膜が太鼓の皮のようにピンと張っていなければなりません。



## 難聴の種類

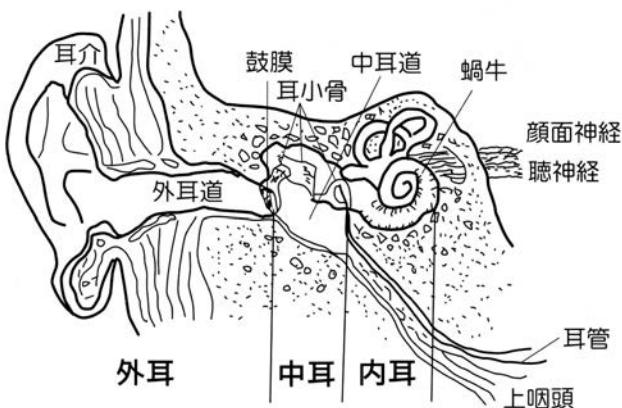


## ■ 幼児期に多い伝音難聴の原因

- アデノイドが大きい
- 鼻づまり（鼻炎・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎など）
- 急性中耳炎
- 滲出性中耳炎
- 耳管狭窄
- 耳垢など…

## ■ 鼻と耳の関係

- 鼻と耳は、奥の方で「耳管」という細い管でつながっています。



### 耳管がよく働いていると…

鼓膜の内側（中耳）と外側（外耳道）との空気圧は、同じに保たれ鼓膜はピンと張って音の振動をよく伝えることができます。

### 耳管の働きが悪くなると…

中耳腔は陰圧になり、鼓膜が張りを失って、きこえが悪くなります。  
(鼻づまりの時などに悪くなることが多い)

# きこえに影響する鼻・のどと耳の

## きこえに影響する鼻・のどの病気

### アデノイド増殖症

アデノイドは幼児期に最も大きくその後だんだん小さくなっていきます。口蓋垂(のどちんこ)の裏側あたりにあり大きいと耳管の入口をふさぎます。

鼻から吸った空気が通りにくいので、いつも口を開けて呼吸したり、大きなびきをかいたりします。

耳管の働きも悪くなりやすく、滲出性中耳炎の大きな原因になります。手術が必要な場合もあります。



### 慢性鼻炎・副鼻腔炎(ちくのう症)

慢性鼻炎・副鼻腔炎がながびくと耳管の働きが悪くなります。中耳炎の原因にもなりやすいので治療が必要です。

15～16歳頃になれば自然に治る場合もあるので、おとの鼻炎や副鼻腔炎に移行することは比較的少ないといわれています。一般的には、小中学生の頃に手術することなく、症状が悪化するたびに治療をくり返すことが大切です。副鼻腔炎で頭が悪くなるという人がいますが、医学的には根拠はありません。ただ、鼻の病気があると、頭重感があったり鼻づまりのために注意力が散漫になり、勉強に身が入りにくくなるようです。

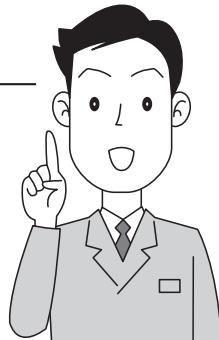
### アレルギー性鼻炎

朝や夕方にくしゃみ・鼻みず・鼻づまりがおこり、鼻や目をかゆがります。

皮膚の弱いお子さんやゼンソクのお子さんなど、アレルギー体质が原因で症状が長く続くと、きこえに影響し、滲出性中耳炎の原因にもなります。

体質的な病気なので完全に治すのは難しいですが、きこえが悪くならないよう症状をコントロールする必要があります。

# 病気について



## 耳の病気

### じこう 耳垢(みみあか)

人によって湿ったやわらかいものもありますが、  
体質的なもので病気ではありません。

耳の入口付近からでてくるもので、おふろ上がりに綿棒等でふいてあげる程度でいいでしょう。奥にたまつたりすると、耳鳴や耳閉塞感がおこることもあり、家庭で無理してとるより、耳鼻科でとってもらうと安心でしょう。

### 急性中耳炎

急性中耳炎はカゼからおこることが多く、原因となる細菌が鼻やのどから耳管を通って中耳に入り、炎症をおこします。発熱、耳痛、耳鳴、難聴がともないます。すぐに治療することにより聴力も回復しますが、くり返しかかることもあります。

### しんしゅつ 滲出性中耳炎



痛みや耳だれもなく、何となくききかえしが多いとか、返事をしないということで受診して気づくことが多いようです。

急性中耳炎の後におきることがありますが、アデノイドが大きいとか、鼻の炎症が続いているなどで長い間耳管の働きが悪いと、

中耳の粘膜から滲み出た滲出液が中耳にたまるものです。

治療によっていったん治っても、幼児期には、くり返しおこることが多いので鼻づまり、きこえなどに注意していくことが大切です。

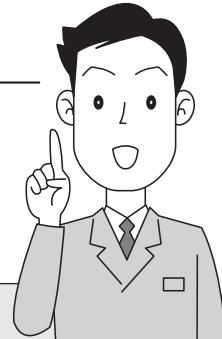
## 次のようなことに注意しましょう。

### 子どものきこえの異常を知るには 次のようなことに注意しましょう。

- 何回呼んでも返事がなかったり、  
ききかえしが多い。
- いつも片耳を寄せてきく。
- 中耳炎をくり返すことが多い。
- ことばが家族にわからないことが多い。

### こんなことも やってみましょう。

- ラジオやテレビの音をイヤホーンで  
お母さんとききくらべてください。
- 大きな音をスピーカーから出してみて  
ください。
- お子さんのうしろで音の出るオモチャ  
を鳴らしてみたり、紙を勢いよく丸め  
て音を出してください。



## 治療でなおらないきこえの異常がみつかったら…。

専門機関でどのくらいきこえないのか、どのようにきこえないのか測定してもらい、必要な場合は、聴力を補うため補聴器をつけることもあります。これはメガネと同じように、その子の聴力に合わせなければなりませんので、信頼のおける専門医や教育機関で補聴器装用に関する指導を受け、ことばの発達に問題がある場合は、それに対する教育を受けることも必要です。

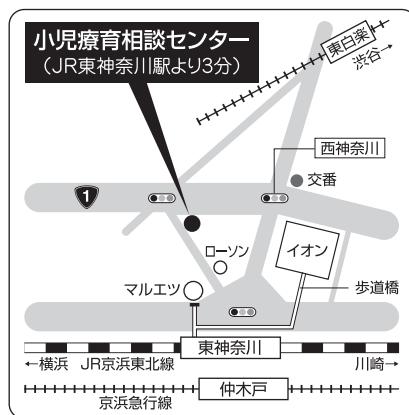
## きこえと同時にことばの問題も大切なことです。

ことばの発達は子どもによって個人差があります。特に発音については、それがいえます。発音を覚える順序としては、3才頃までにカ行音や、ガ行音を正しく言えるようになり、サ行、ザ行、ラ行、ツなどの難しい音は6才頃までに発音できればよいとされています。子どもがはっきりしないしゃべり方をした時でも、注意をしたり言い直しをさせたりしないで、よくきいてやり、正しい発音で言ってきかせることが大切です。

一方、舌、口蓋、歯列、口唇などに問題があるために、発音に影響することがあります。万一、心配な場合は、専門機関に相談した方がよいでしょう。

memo





## 小児療育相談センター

### 検診事業部

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-9-1

電話 045(321) 1773(直通)